

プロジェクト期間：2021年6月から2024年1月まで

※統合エネルギー・電力マスタープランは2022年12月を目途に策定予定

堅調な経済成長に伴って一次エネルギー需要が拡大しているバングラデシュでは、エネルギー供給構造の転換点を迎えており、需要想定の変化や低・脱炭素に向けた世界的な気運の高まりなど、現状に即したエネルギー計画の見直しを行う。

上位目標

エネルギーの安定供給及び経済合理性の確保を前提とした
低・脱炭素エネルギー需給システムが構築される。

プロジェクト目標

バングラデシュの持続可能な開発の達成のために必要となる、
低・脱炭素エネルギー需給システム構築の実現を見据えた統合
エネルギー・電力マスタープランが策定される。

◆プロジェクトの流れ

エネルギーデータ管理体制整備

- ✓ データ管理の現状確認、課題分析
- ✓ 最新データの収集・分析

国家計画及び各セクターの既存マスタープランのレビュー

- ✓ 既存計画（NDC、各セクターのMP等）のレビュー
- ✓ 既存MPの供給量、設備能力、開発計画、消費効率等の見直し

エネルギー需要予測

- ✓ 既存及び収集データを基に、モデルを使って将来の需要を予測

環境社会配慮

- ✓ 環境社会面の課題等の抽出
- ✓ 環境社会面からの影響を比較検討

LNG輸入に係る法的枠組み検討

- ✓ 現行法令、規則の分析と課題の特定（商取引、品質管理、環境、安全等）

- データ管理体制の提案
- GHG インベントリ報告書作成の支援、提案
- GHG削減目標の更新に向けた提案

エネルギーデータ管理システムの構築支援と能力強化

一次エネルギー・電力供給計画 (目標年：2030、2041、2050)

- 想定された電力・エネルギー需要を基に国内生産能力、輸入電力・エネルギーを考慮

統合エネルギー・電力マスタープランの策定

- 電力システムMP
- 省エネルギーMP
- ガスセクターMP
- ガス規制管理組織の能力・権限強化
- 戦略的環境評価（SEA）報告書案作成

低・脱炭素社会の実現に向けたアクションプラン作成

- 諸外国の例を参考に、関連法並びに規則の草案策定のための提言

- 想定されるプラン
 - インフラ整備
 - 再エネ導入
 - エネルギー効率改善
 - 新エネルギーの導入
 - エネルギーデータ管理
 - LNG法的枠組み整備等